



肥後民家村



とろろそば



おろしそば



せいろそば



「蕎」

「蕎」といえば、歴史は古く、うどんや寿司、天ぷらと並ぶ、代表的な日本料理です。この蕎麦を肥後民家村でも食べることができ

ます。
午前十一時、中原夫妻の営む「蕎麦屋木阿彌」の開店時間です。

まずは、「蕎麦屋木阿彌」の名前の由来を尋ねたところ、「木阿彌」とは、「元の木阿彌」という意味です。昔、商売をしていましたが、不景気のおおりに受けて閉店に追い込まれてしまいました。新たに蕎麦屋を開店するにあたり一からのスタートという意味も込めて『木阿彌』という言葉をつけさせていただきました」と中原さん。中原さんが「蕎麦屋木阿彌」を開店されたのが六十一歳の時。一日五人ほどのお客様がいれば良いと思って始めた蕎麦屋も、今では十人を超え

るお客様と常連さんで賑い、今年で7年目を迎えます。

取材途中で、お客さんが来られました。

取材は一時中断し、店の脇からそのおもてなしの様子を見させていただきました。

まず、蕎麦茶と二緒に添えられた「つま

もの」の葉っぱにお客さんが感動されていました。そして、中原さんお勧めの「木阿彌御膳」を食べて、十割蕎麦のこしと甘みに驚かれていました。お客さんも満足の様子です。

「『つまもの』は、肥後民家村の草木の落ち葉を使っています。肥後民家村では、四季折々の自然を楽しむことができます。また、訪れるたびに新しい発見があります」と中原さん。また、食事のみでなく蕎麦

蕎麦職人

中原 邦雄 さん
千枝子 さん



打ち体験を楽しむこともできます。

二度、商売に失敗した私が、こんなに楽しく蕎麦を打つことができる。蕎麦打ち体験を通じて団塊の世代の方の何かの活力になればと思います。

趣味で始めた蕎麦打ちが、中原さんの第二の人生を支え、肥後民家村を訪れるお客様に感動と癒しを与えています。

食事

木阿彌御膳 1,000円 とろろ蕎麦、おろし蕎麦、せいろ蕎麦 800円
蕎麦打ち体験（要予約） 自分で打った蕎麦を食べることもできます。

3名様から受付 1人1,000円
肥後民家村 蕎麦屋木阿彌 <http://www.mokami.com/>
中原さんのブログもお楽しみください。

営業日 木曜日から日曜日、祭日

営業時間 午前11時から午後2時30分まで ※ただし、雨が切れ次第終了いたします。
問い合わせ先 0968・86・4885（中原まで）



地球の未来について
みなさん今一度真剣
に考えてみませんか？

地

球表面の温度は受け取った太陽エネルギーの量によって決まりますが、地球の内部にも少しはエネルギー源があります。火山や温泉や地震などがその現れです。地下にはウランやトリウムなどの放射性元素の自然崩壊によってエネルギーを放出しています。しかしそれは地球表面層においては太陽エネルギーの2万分の1という小さな値なので、地球内部の問題のとき以外は普通は無視して計算します。

気候変動については19世紀半ば頃から盛んに研究されています。地球は太陽の周りを一年でひと回りしています。しかしその軌道は厳密にいうと円運動ではありません。僅かではありますが楕円運動をしているのです。そして太陽は楕円の二つある焦点のうちの二つの焦点に位置しています(ケプラーの第1法則。

※1)

楕円運動のために地球から太陽間の距離は僅かではあるが一年を通じて周期的に変化しています。1月3日頃太陽に最も近く(近日点)なり、7月4日頃最も遠く(遠日点)なります。したがって1月3日の方が7月4日より太陽エネルギーを多く受けることになります。また離心率(楕円の程度)も周期的に大きくなったり小さくなったりするので公転軌道が伸び縮みするのです。これも僅かではあるが日射量に影響します。

もう一つの周期的な影響は地球の歳差運動です。地球は北極と南極を結んだ線を軸として1日1回自転します。この自転軸の方向は公転軌道面(地球が太陽の周りを回る面)に対して直角ではなく66.6度傾いています(これが四季をもたらす原因)。自転軸を北の方向へ延ばしていくとその先に北極星があります。ところが1万年数千年前には北極星はこと座の1等星ベガだったのです。このように自転軸はコマが倒れる前に首振り運動をするような運動をしているのです。これを歳差運動といいます。地球の歳差運動は一周するのに2万年以上かかります。しかしこれが地球に入射する太陽エネルギーのバランスを変化させ、気候変動に影響する重要な要因の1つになっています。

このように入射エネルギーの変化は、地球の自転と公転に関する三つの要素、すなわち離心率・歳差運動・自転軸の傾きによる複合運動によるもので、地球の気候はデタラメに変動してきたわけではなく、氷期と間氷期というパターンを周期的に繰り返してきたのではないかと考えられます。

セルビアの気象学者ミルティン・ミランコビッチ(1879~1958)は天文学的な要素を厳密に計算し、1941年地球の運動による日射量の変動が気候変動の原因であるという考えをまとめ

あげました。

以上のような天文学的な計算にもとづくと、現在は間氷期にあたり、これから氷期つまり寒冷期に向かうのではなからうかというのが一般的な予想でした。ところが30年程前からカリフォルニアのスクリpps海洋研究所やロンビヤ大などから「地球の平均気温が上昇し続けている、その上昇の幅は自然のもつ気候のゆらぎの幅を逸脱しているようである。」といわれて、世界中があわて始めたということでした。

※1ケプラーの法則とは、1619年にヨハネス・ケプラーによって解明された惑星の運動に関する法則である。第1法則(楕円軌道の法則)・・・惑星は、太陽をひとつの焦点とする楕円軌道上を動く。